

令和5年6月30日

関係機関・団体の長 様

新潟県病虫害防除所長

新潟県病虫害発生予察情報・予報第4号の送付について

このことについて、別添のとおり発表しましたので、送付します。

なお、この情報は、「新潟県病虫害防除所」のホームページでも閲覧できますので、適宜御活用ください。

また、次回の予報第5号（7月後半の発生予想）の発表日は、7月14日（金）を予定しています。

新潟県病虫害防除所業務課

電 話：0258-35-0867

F A X：0258-35-7445

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/bojo/>

令和5年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第4号
(7月の発生予想)

令和5年6月30日

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【水稻】

葉いもち	量：並 程度：少発生 時期：並	① 本田初発確認は6月21日(平年6月28日)で平年比早く、発生量は平年並。(±~+) ② BLASTAMによるいもち病感染好適条件は、6月12~16日、22~24日、28日に各地で断続的に出現したことから、7月上旬に発病が増加する可能性がある。(+) ③ コシヒカリBLの作付けが多く、発病進展には抑制的に働く。(－) ④ 向こう1か月の天候は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。(±~+)
紋枯病	量：やや多 程度：少発生 時期：並	① 前年の発生量は平年比やや多く、越冬菌核量は平年比やや多いと推測される。(+) ② 6月28日現在、初発は未確認(平年7月5日)で、発生量は平年並。(±) ③ 向こう1か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か多いと予想されている。(+)
稲こうじ病	感染量：やや少ない	① 前年の発生量は平年比やや少なく、伝染源量は平年比やや少ないと推測される。(－) ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±~+)
【防除上の留意事項】 多発生地及び前年に規格外が発生したほ場では、薬剤防除を実施する。		
ニカメイチュウ	量：並 程度：少発生 時期：やや早い~並	① 6月下旬の被害株率は平年比やや少ない。(－) ② 越冬世代の発蛾盛期は5月第5半旬~6月第1半旬頃で平年比早い~並、トラップ誘殺数は平年並。(±) ③ 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(+)
斑点米カメムシ類	量：並 時期：並	① 6月下旬の畦畔すくい取り調査では、アカスジカスミカメ確認虫数は平年比少ない、確認地点率は平年比低い。アカヒゲホソミドリカスミカメの確認虫数は平年比やや少ない、確認地点率も平年比やや低い。オオトゲシラホシカメムシの確認虫数は平年比やや少ない、確認地点率も平年比やや低い。(－) ② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(+)
【防除上の留意事項】 ① 水田周辺の畦畔や水田内の雑草管理を徹底し、斑点米カメムシ類の密度低減、水田内への侵入防止に努める。 ② 今後の水稻の出穂期予報に留意し、斑点米カメムシの多発地域及び前年に斑点米被害が多かったほ場では、品種ごとの適期防除に努める。		

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【水稲】 つづき

セジロウンカ	量：並 時期：やや遅い	① 6月27日現在未確認（平年初確認は6月26日）で発生量は平年並み。（±）
ツマグロヨコバイ	量：並 程度：少発生	① 6月下旬の株当最高寄生数は平年比やや少ない。（-） ② 6月下旬の本田すくいとり虫数は平年並。（±） ③ 向こう1か月の平均気温は高いと予想されている。（+）
イネアオムシ （フタオビコヤガ）	量：並 程度：少発生	① 6月下旬の幼虫発生量は平年比やや少ない。（-） ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。（±）
コブノメイガ	量：並	① 6月27日現在未確認で発生量は平年並。（±）
コバネイナゴ	量：並 程度：少発生	① 6月下旬の発生量は平年比やや少ない。（-） ② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。（+）

【大豆】

アブラムシ類 （褐斑粒）	量：やや少ない 程度：少発生	① 6月下旬のジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は平年比やや少なく、その他アブラムシ類の発生量も平年比やや少ない。（-） ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。（-）
-----------------	-------------------	--

【なし】

黒斑病	量：並 程度：少発生 （発病葉率1～5%）	① 6月下旬の発生量（発病葉）は平年比やや少ない。（-） ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。（±～+）
黒星病	量：やや多い 程度：少発生 （発病葉率1～5%）	① 6月下旬の発生量は平年並。（±） ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。（±～+） 【防除上の留意事項】 ① 発病した果実及び葉は二次伝染源となるため、見つけ次第除去して土中深く埋める等、適切に処分する。 ② 防除効果を高めるため、薬剤散布は発病部位を除去した後に行う。 ③ 耐性菌の増加を抑制するため、作用機構の同じ薬剤の連用は避け、作用機構の異なる薬剤をローテーションで使用する。

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【なし】つづき

セイヨウナシ 褐色斑点病	量：やや多い 程度：少発生 (発病葉率1～5%)	① 6月下旬の発生量(発病葉)は平年比やや多い。(+) ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±～+)
【防除上の留意事項】 ① 発病葉、発病果及び発病枝は二次伝染源となるので、見つけ次第せん除して土中深く埋める等適切に処分する。 ② 梅雨期間の降雨は感染に好適であるため、散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を延期せず降雨前散布を徹底する。		
ナシヒメシンクイ	量：やや多い 程度：少発生 (被害果率1～2%) 時期：やや早い (第2世代成虫の発蛾盛期は7月第4～5半旬)	① 6月下旬に被害果は認められず発生量は平年並。(±) ② 6月下旬までのフェロモントラップ誘殺数は平年比多い。(+) ③ 第2世代成虫の発蛾盛期は、有効積算温度から平年比やや早いと推測される。 ④ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(+)
【防除上の留意事項】 ① 被害果を見つけた場合は、土中深く埋めるなど速やかに処分して、次世代による被害を防ぐ。 ② 第3世代幼虫の防除適期は、第2世代成虫誘殺盛期の直後(1～2日後)である。		
ハマキムシ類	量：やや多い 程度：少発生 (被害葉率1～15%) 時期：並 (第1世代成虫の発蛾盛期は7月第3半旬頃)	① 6月下旬の被害葉の発生は未確認で平年並。(±) ② 越冬世代成虫のフェロモントラップ誘殺数は平年比やや多い。(+) ③ 第1世代成虫の発蛾盛期は、有効積算温度から平年並と推測される。 ④ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(+)
【防除上の留意事項】 第2世代幼虫の防除時期は、誘殺盛期の14日後である。		
アブラムシ類	量：やや少ない 程度：少発生 (発病葉率1～5%)	① 6月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±～－)

<p>【作物名】 病害虫名</p>	<p>予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比</p>	<p>予報の根拠</p>
-----------------------	--	--------------

【なし】つづき

<p>ハダニ類</p>	<p>量：並 程度：少発生 (寄生葉率1~15%)</p>	<p>① 6月下旬の発生量(寄生葉)は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量は平年並か多いと予想されている。(±~-)</p>
<p>【防除上の留意事項】</p>		
<p>① ハダニ類は、発生が多くなると防除が困難となるため、園内をよく観察し発生初期に防除を行う。 ② ハダニ類は薬剤抵抗性がつき易いので、同一殺ダニ剤の使用は原則として年1回とする。</p>		
<p>コナカイガラムシ類</p>	<p>量：並</p>	<p>① 6月下旬に卵のうの寄生が認められた。(+) ② 6月下旬までのクワコナカイガラムシのフェロモントラップ誘殺数は平年比やや少ない。(ー) ③ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(+)</p>
<p>【防除上の留意事項】</p>		
<p>① 樹皮の隙間、窪み、枝の切り口等をよく観察し、卵のうや虫の寄生が認められた場合は、ブラシ等でこすり落とす。 ② クワコナカイガラムシ第1世代幼虫の防除時期は7月中旬である。</p>		
<p>果樹カメムシ類</p>	<p>量：並 程度：少発生 (被害果率1~2%)</p>	<p>① 6月下旬現在、被害果は認められず発生量は平年並。(±) ② 6月下旬までの越冬世代成虫の予察灯での誘殺数は平年比やや少ない~並。(ー~±) ③ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(+)</p>

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【もも】

せん孔細菌病	量：やや多い 程度：少発生 (発病葉率1～10%)	① 6月下旬の発生量(発病葉)は平年並。(±) ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±～+)
<p>【防除上の留意事項】</p> <p>① 収穫期が近づき薬剤防除が困難となることから、以下の耕種的防除を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本病は風雨により発病が助長されるため、防風網の設置、補修等、防風対策を行う。 ・新梢に発生する夏型枝病斑は、当年の重要な伝染源となるため見つけ次第発病枝ごとせん除し、土中深く埋める等適切に処分する。 <p>② 次作における伝染源量を減らすため収穫後の秋期防除を必ず実施する。</p>		
灰星病	量：やや多い 程度：少発生 (発病果率1～5%)	① 5月の発病花率は平年比多い。(+) ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±～+)
<p>【防除上の留意事項】</p> <p>① 発病果は見つけ次第せん除し、土中深く埋める等適切に処分する。</p> <p>② 重点防除時期は収穫20日前頃～収穫期である。</p>		
モモハモグリガ	量：やや少ない 程度：少発生 (被害葉率1～15%)	① 6月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 6月下旬までのフェロモントラップの誘殺数は平年比やや少ない。(－) ③ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
ナシヒメシンクイ	量：やや多い 程度：少発生 (被害果率1～2%) 時期：やや早い (第2世代成虫の発蛾盛期は7月第4～5半旬)	① 6月下旬の新梢被害の発生量は平年並。(±) ② 6月下旬までのフェロモントラップ誘殺数は平年比多い。(＋) ③ 第2世代成虫の発蛾盛期は、有効積算温度から平年比やや早いと推測される。 ④ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
<p>【防除上の留意事項】</p> <p>① 被害新梢(心折れ)や被害果実は見つけ次第せん除して幼虫密度を減らす。</p> <p>② 第3世代幼虫の防除適期は、第2世代成虫誘殺盛期の直後(1～2日後)である。</p>		
果樹カメムシ類	量：並 程度：少発生 (被害果率1～2%)	① 6月下旬の被害果は認められず発生量は平年並。(±) ② 6月下旬までの越冬世代成虫の予察灯での誘殺数は平年比やや少ない～並。(－～±) ③ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【ぶどう】

晩腐病	発生量：並～やや多い 感染時期：並	① 前年の発生量は平年並で、越冬伝染源量も平年並と推測される。(±) ② 6月下旬の発生は未確認で平年並。(±) ③ 孢子飛散時期は6月第5半旬(4月1日起算、1400日度)と推測され、平年並。(±) ④ 向こう1か月の降水量は平年並が多いと予想されている。(±～+)
【防除上の留意事項】 ① 重点防除時期は、6月中旬～7月中旬である。 ② 着果量を適正にし、房作り終了後直ちに袋掛け、笠掛けを行う。 ③ 着色期以降、ほ場を見回り発病果は二次伝染防止のため見つけ次第摘み取り適切に処分する。		
べと病	量：やや多い 程度：少発生 (発病葉率1～10%)	① 前年の発生量は平年比やや多く、越冬伝染源量も平年比やや多いと推測される。(+) ② 6月下旬の発生量(発病葉)は平年比多い。(+) ③ 向こう1か月の気温は高く(-)、降水量は平年並が多いと予想されている。(±～+)
【防除上の留意事項】 ① 発病後の防除では効果が低いので、予防散布を徹底する。 ② 発病葉、発病果は二次伝染源となるため、見つけ次第せん除し土中深く埋める等適切に処分する。 ③ 散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を延期せず降雨前散布を徹底する。		
褐斑病	量：並 程度：少発生 (発病葉率1～10%)	① 前年の発生量は平年比少なく、越冬伝染源量も平年比少ないと推測される。(-) ② 6月下旬の発生は未確認で発生量は平年並。(±) ③ 向こう1か月の降水量は平年並が多いと予想されている。(±～+)
フタテンヒメヨコバイ	量：並 程度：少発生 (被害葉率1～25%)	① 6月下旬の発生は未確認で発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量は平年並が多いと予想されている。(±～-)

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【かき】

円星落葉病	感染量：並～やや多い 感染時期：早い	① 前年の発生量は平年並で、越冬伝染源量も平年並と推測される。(±) ② 子のう胞子飛散盛期は、積算温度から平年比早かったものと推測される。 ③ 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±～+)
<p>【防除上の留意事項】</p> <p>① 重点防除時期は、6月上旬～7月中旬である。</p> <p>② 樹勢の低下が発病を助長するので、肥培管理に努める。</p>		
チャノキロアザミウマ	量：並 程度：少発生 (被害果率1～2%)	① 6月下旬の被害果の発生は未確認で平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(+)
カキクダアザミウマ	量：並 程度：少発生 (被害果率1～2%)	① 6月下旬の発生量(被害葉)は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(+)
果樹カメムシ類	量：並 程度：少発生 (被害果率1～2%)	① 6月下旬までの越冬世代成虫の予察灯での誘殺数は平年比やや少ない～並。(－～±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(+)

【すいか】

つる枯病	量：並 程度：少発生 (発病葉率1～25%)	① 6月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±～+)
炭疽病	量：並～やや多い 程度：少発生 (発病果率1～25%)	① 6月下旬の発生量は平年並～やや多い。(±～+) ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±～+)
アブラムシ類	量：並 程度：少発生 (寄生葉率1～25%)	① 6月下旬の発生量は平年並～やや多い。(±～+) ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±～－)
ハダニ類	量：並 程度：少発生 (寄生葉率1～25%)	① 6月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量は平年並か多い(±～－)と予想されている。
オオタバコガ	量：並 程度：少発生	① 6月下旬の発生量は平年並。(±) ② フェロモントラップの総誘殺数は平年比やや少ない。(－) ③ 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量は平年並か多い(±～－)と予想されている。

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【秋冬ねぎ】

べと病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病株率1~10%)	① 6月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高く(－)、降水量は平年並か多い(±~+)と予想されている。
さび病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病度1~5)	① 6月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高く(－)、降水量は平年並か多い(±~+)と予想されている。
黒斑病・葉枯病	量：並 程度：少発生 (発病度1~20)	① 6月下旬の発生は未確認で、発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の降水量は平年並か多い(±~+)と予想されている。
軟腐病	量：並 程度：少発生 (発病株率1~5%)	① 6月下旬の発生は未確認で、発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量は平年並か多い(±~+)と予想されている。
ネギハモグリバエ	量：並 程度：少発生 (被害度1~10)	① 6月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量は平年並か多い(±~－)と予想されている。
ネギアザミウマ	量：並 程度：少発生 (被害度1~10)	① 6月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量は平年並か多い(±~－)と予想されている。 【防除上の留意事項】 ・定期的に防除を行い、密度抑制に努める。その際、作用機構の同じ薬剤の連用は避ける。
シロイチモジヨトウ	量：並 程度：少発生 (被害株率1~10%)	① フェロモントラップの誘殺数は平年並。(±) ② 6月下旬の被害は未確認で平年並。(±) ③ 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量は平年並か多い(±~－)と予想されている。

【ユリ(球根養成)】

葉枯病	量：並	① 6月下旬の発生は未確認で平年並。(±) ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±~+)
アブラムシ類	量：並	① 6月下旬の発生は未確認で平年並。(±) ② 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されている。(±~－)

【その他】

【アブラナ科野菜】 コナガ	量：やや多い	① フェロモントラップの誘殺数は平年並~多い。(＋) ② 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量は平年並か多いと予想されている。(±~－)
------------------	--------	--

～ 防除上の注意事項は、最新の「新潟県農作物病害虫雑草防除指針」を参照してください ～

注1：①「予報内容」の発生量は、予想される発生量が、新潟県における平年の発生量に比べて多
いか少ないかを、少、やや少、並、やや多、多の5段階で表記しています。

②発生程度は、予想される発生量が、国の調査実施基準等で定められている、無発生、少発
生、中発生、多発生、甚発生のいずれに該当するかを表記しています。

注2：「予報の根拠」の、(+)は発生量を増加させる要因、(-)は発生量を減少させる要因、
(±)はどちらともいえない要因を示しています。

～ 農薬は適正に使用しましょう ～

【新潟県農薬危被害防止運動実施期間：6月1日～8月31日】

- 農薬の準備・使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認しましょう。
- 使用に際しては、ラベルに記載の使用基準や注意事項をよく読み、使用者が責任を持って使
きましょう。
- 農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、周辺の
生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。
- 農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。
- 水田で湛水して農薬を散布する場合は、処理後7日間の止水を厳守し、落水しないようにしま
しょう。

新潟県病害虫防除所業務課

電 話：0258-35-0867

F A X：0258-35-7445

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/bojo/>

【参考】北陸地方 1か月予報（7月1日から7月30日までの天候見通し）
 （新潟地方气象台：令和5年6月29日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。
 低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並みか多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。
 週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。
 2週目は、平年並か高い確率ともに40%です。
 3～4週目は、高い確率40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	20	30	50
降 水 量	20	40	40
日照時間	40	30	30

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

	低い	平年並	高い
1週目（7月 1日～7月 7日）	10	40	50
2週目（7月 8日～7月14日）	20	40	40
3～4週目（7月15日～7月28日）	30	30	40